

令和元年度 川崎小学校 研究デザイン

教育大綱 基本方針一

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員 研修基本方針

「一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら
なかまとともに主体的に学ぶために」

- (1) すべての子どもの学び意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
- (2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
- (3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感を高める教育活動をすすめる。
- (4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。

本校児童の実態 (H30 年度児童アンケート・学力学習状況調査結果より)

- ・生活習慣の面からは、「毎日同じくらいの時刻にだいたい寝ている」児童が 79%、「朝ごはんをほとんど毎日食べている」児童が 93%と大多数の児童が規則正しい生活を送っている。
- ・地域学習やクラブなどを楽しみにしている児童は 90%おり、校外の人やモノとの関わりの中で自らの学びを広げている児童も多い。

【自ら進んで考える】と関わって

「平日、宿題の他に家での勉強は 30 分以内もしくはほとんどしていない」と回答した(児童アンケート)児童が 69%いた。自学自主ノートや読書に取り組んだり、児童の学習に対する主体性を伸ばしていくために授業改善を行ったりしてきたが、まだまだ課題が残る。
⇒自ら進んで考えたいと思わせる課題設定や場面設定が必要と考える。

【共に学びを高め合う】と関わって

「先生や友達の話をしっかり聞くことができた」の項目(児童アンケート)では、肯定評価が 88%だが、実際には、記述問題で問われている内容に対して正しく条件通りに内容をまとめることができない児童が多い。
⇒問われている内容を正しく理解するためにも読書の機会や聞く場面を増やしていく。
また、自分の考えを伝えたり説明したりできるよう、言語技術、コミュニケーション力を育成し、論理的な対話の中から深い学びへと導いていく。

1 学校教育目標

「ふれあいを通して人と人がつながり 学びにあふれる学校」

- ・保護者・地域と情報共有しながら、協働し、大人も子どももつながる。
- ・豊かな学び・確かな学びが実感できる、笑顔あふれる教育活動を創造する。

2 研究主題

「自ら進んで考え、共に学びを高め合う子どもの育成」

～主体的・対話的で深い学びのある授業づくり～

3 主題設定の理由について

平成 30 年度は、特別な教科道徳、外国語の授業研究を行い、新学習指導要領の内容に即して、実際の授業をどのように行えばよいのかを研修してきた。また、学級づくりを基盤とする仲間づくりにも重点をおき、QI実施と分析、学級経営の振り返り等の時間を職員で共有した。

昨年度の児童アンケート・学力学習状況調査では、平日に宿題以外の勉強を家で 30 分以内もしくはほとんどしていない児童が 69%いることがわかった。自学自主ノートや読書に取り組んだり、児童の学習に対する主体性を伸ばしていくために授業改善を行ったりしてきたが、課題が残る。記述問題では、問われている内容に対して正しく条件通りに内容をまとめることができない児童が多かった。

今年度は、昨年度研修した授業の進め方や評価の視点等を生かしながら、さらに児童の実態に即した主体的・対話的で深い学びのある授業づくりを目指す。授業の中で「主体的・対話的」な場面(自ら進んで考えたいと思わせる課題や場面)をどのように設定するか、また、学びによる自己の変容「深い学び」をどのように引き出していくかを研修する。

研究領域を国語科・算数科とし、授業研究の中では、話し合い活動で必要なコミュニケーションスキルの育成にも重視していく。普段から、問われている内容を正しく理解するためにも読書の機会や聞く場面を増やしていく。また、自分の考えを伝えたり説明したりできるよう、話す力を育成し、論理的な対話から深い学びへと導いていく。「言語技術」教育を研修内容のキーワードとし、児童の発達に合わせて、系統的、段階的に「聞く・話す・読む・書く」の「言語の四機能」を鍛錬していく。また、思考の活性化を図る課題設定の工夫を通して、今まで取り組んできた「めあて」についても再度見直しを図るとともに、個の変容を具体的な姿としてとらえるため、「7つの振り返りの視点」による学びの自覚で、授業改善を進めていく。

*コミュニケーションスキル・・・

必要な時、必要な場で自分自身の感情や考えを、適切な言葉で表現するための技術。互いに共通して理解できるよう、互いが納得のいくまで言葉を重ねて話し合うこと。

*7つの振り返りの視点・・・

- ①新しく疑問に思ったことは何か。
- ②自分ができるようになったことは何か。
- ③新たに気づいたこと、発見したことは何か。
- ④友達の考えを聞いて自分が考えたことはどのようなことか。
- ⑤今日の授業でより詳しく分かったことは何か。
- ⑥今日の授業から、もっと知りたいと思ったことは何か。
- ⑦他の授業で使えそうなことは何か。

4 研究領域・・・国語科 算数科

中部中学校区研究主題

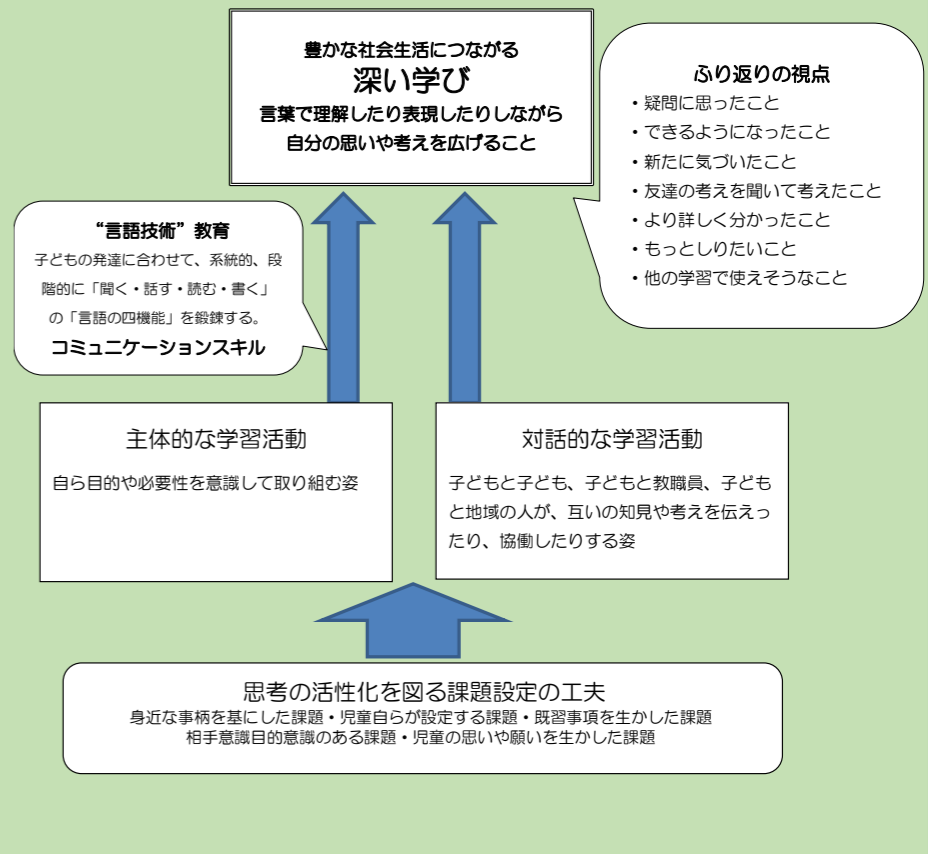
主体的な学びと対話的な活動のある授業づくり

～学びをつなぎ、高め合う子の育成～

中部中学校区では・・・

- ・実態として、友達同士のトラブルや学習意欲の低下、自己肯定感が低い児童生徒もいる。聞く力や話す力、関わる力に課題があると考える。
- ・新学習指導要領が来年度から本格実施となるため、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」を通して、児童生徒に「生きる力」をつけていく必要がある。
- ・教職員の世代交代が進んでおり、研修を通しての人材育成も大きな課題である。
- ・小中で連携を図りながら、一人ひとりの主体的な学びを導き、集団の中で考えを練り上げ、協働的に学ぶ授業を展開することで、「人と関わる力」「相手の話しを聴く力」「自分の考えや思いを伝える力」を伸ばしていく。

研究構想図



令和元年度 学力向上推進計画

「書く力」の育成を軸とする学力向上の取組

亀山市立川崎小学校

I めざす子ども像

自ら進んで考え、共に学びを高め合う子どもの育成
(研修目標) 主体的・対話的で深い学びのある授業づくり

II 子どもたちの学力や学習・生活の状況等

* 内面本校児童実態の欄に記入

III 指導改善のための計画(ポイント)

<学力に関して>

- 学習内容の理解定着を進め、基礎基本の向上を目指す。
- 新要領に沿った学力を育むために、授業改善を進める。
(主体的に取り組める課題の設定、対話的な活動を応じた学びの可視化、振り返りの充実による深い学び)
- 「聞いて(考えて)話す、読んで(考えて)書く」ことで、「聞く・話す・読む・書く」の言語の4機能を鍛錬する。

<学習・生活の状況に関して>

- 少人数指導を活用し、児童が質問しやすい環境をつくる。
- 自分の考えや他の者の考えを、伝え聞きあう場面を授業の中に位置づける組織的な取組が必要である。
- 宿題内容の工夫をすることで家庭での学習時間を増やす。
- 家庭の生活習慣改善のため、学校家庭地域が連携し「4改善(あいさつ・睡眠・食・読書)」の啓発活動に取り組む。

IV 具体的な取組

<確かな学力を身につける授業の改善>

- 3活動(見通し・言語活動・振り返り)を授業に設定。
- 基礎基本の定着(朝学習・補充学習・サマースクール)
- 「川小版 学びのスタイル」の徹底。
- 研究授業を検証場面に、次の視点で授業を改善する。
【主体的に取り組める課題の設定】
【対話的な活動を通じた学びの可視化】
【振り返り活動の充実による深い学び】
- 【言語技術を育成】し、コミュニケーション力を高め、深い学びにつながる授業のあり方を探っていく。

<組織的に取り組む学校体制の確立>

- 国/算で習熟度に応じた効果的な少人数指導を進める。
- 毎月、補充学習の日を設定し、基礎基本の定着を図る。
- 自主学習ノートを掲示し、児童の意欲向上につなげる。
- 児童が、学びの深まりや学びによる自らの変容がわかるように、具体的な振り返りの視点を設定する。
- 年間4回の授業研究を中心に、全教員が主体的対話的で深い学びのある授業のありかたを探り、指導力を高める。

<指導力を高める研修の推進>

- みえスタや学力調査の結果分析と課題共有
- 全教職員で結果分析を行い、求められている力や、課題を把握し、低学年から共通指導事項の徹底を図る。
- 授業改善
- アクティブラーニングの具現化を上記【 】の内容で進めていく。
- 安心して学び合える集団づくり
- Q/Uやいじめアンケートを活用し、児童理解や学級づくりに関する教職員の力量を高める。

<家庭・地域との連携の強化>

- 家庭との連携
- みえスタ・学力調査等から把握した課題を家庭と共有する。
- 家庭学習の手引きを配付し、家庭学習の充実を図る。
- 地域との連携
- 地域の歴史、文化、人材を活用した学習を行う。
- 地域学習やフレンドリークラブ等による体験活動の充実を図り、学びの意欲の向上につなげる。

研修日程(未定内容含む 随時追加更新あり)

*未定のもも含んでいますが、概ねこのような流れです。

月日	内容
4月17日(水)	今年度の研究内容について
5月15日(水)	亀山市教育研究推進協議会一斉研修会
5月~6月	仲間づくり関係 QU実施 QU自校打ち込みと分析(年間2回予定中の1回目)
6月24日(月)	QU結果共有とアセスメントと対応策
6月25日(火)	3年授業研究(授業者:堀田)事前検討会
7月2日(火)	3年授業研究(授業者:堀田)(武居指導主事)
7月22日(月)	外国語の授業づくりについて(川村先生)
7月24日(水)	保健関係「色覚について」(安藤) 道徳の授業づくりについて(鎌田先生)
8月5日(月)	市教研一斉研修日(終日)
8月28日(水)	市教研一斉研修日(午後)

9月4日(水)	各自の研究内容選流
10月3日(木)	特別支援学級授業研究(授業公開2限)
10月21日(月)	6年授業研究(授業者:田川)事前検討会
10月28日(月)	6年授業研究(授業者:田川)(武居指導主事) 仲間づくり関係 QU実施
	QU自校打ち込みと分析(年間2回予定中の2回目)
11月5日(火)	市教研一斉授業指導案提出締め切り日
11月13日(水)	市教研一斉授業研(各会場)
11月 未定	英語チャレンジについて(56年ミニネストの内容:市教委)
12月~1月 未定	健康に働くために(豊田先生)
1月15日(水)	市教研一斉研 教育研究集会 於:井田川小
1月16日(木)	1年授業研究(授業者:久保)事前検討会
1月24日(金)	1年授業研究(授業者:久保)(武居指導主事)
	今年度のまとめ

令和元年度 川崎小 研究デザイン



令和元年度学校経営方針

亀山市立川崎小学校

- コミュニティスクールとしての基本理念
— 地域の中で、みんなで生き生きと学ぶ川崎っ子の育成 —
- めざす学校像 **ふれあいを通して人と人がつながり、学びにあふれる学校**
 - 保護者・地域と情報共有しながら協働し、大人も子どももつながる
 - 豊かな学び・確かな学びが実感できる、笑顔あふれる教育活動を創造する
- めざす学校像実現に向けた重点目標 **★感動のある学校★**
 - 保護者・地域との連携・協働で、特色ある教育活動と安心安全な学校づくりを進めます。
 - 学校運営協議会を中心に、保護者や地域に開かれた学校運営
「地域とともにある学校」「学校を核とした地域づくり」「くろぼくふれあい活動」
 - 地域の歴史・文化・人材を活用した学習と地域参画・地域貢献
 - 地域と連携した危機管理の充実(交通安全、防災防犯訓練の実施)
 - 学校情報の積極的な発信
 - 自分と仲間を大切にできる心と実践力を育む教育を進めます。
 - 「いじめを生まない」学校全体での組織的な取組
 - 子どもの居場所がある学級経営、児童と児童をつなぐ仲間づくり
 - 児童・保護者との信頼関係を基盤とした児童理解・支援の充実
 - 自らの生き方に向き合う学習や自治活動・芸術活動等の充実による自己肯定感の向上
 - 保健指導・健康教育(眠育による望ましい生活習慣、多様な食の学び)
 - 学びの基礎を充実し、誰もがわかる主体的で対話的な授業へ改善を進めます。
 - 授業規律の確立 ○基礎学力の確かな定着
 - 家庭との連携協働による「自学自習」の習慣化
 - 「深い学び」を実現する授業改善 ○「書く力」「コミュニケーション力」の向上
 - 全校体制での学力調査等の活用
 - 教職員が子どもたちの教育実践に力を発揮できる環境づくりを進めます。
 - 「明るく、仲良く、元気よく」校務に取り組む職場風土
 - 総勤務時間の縮減、教職員の過重労働による健康障害防止
 - ストレスリスクの軽減 ○教職員が学びあえる研修の推進
 - 法令遵守意識の向上、ハラスメントの防止

